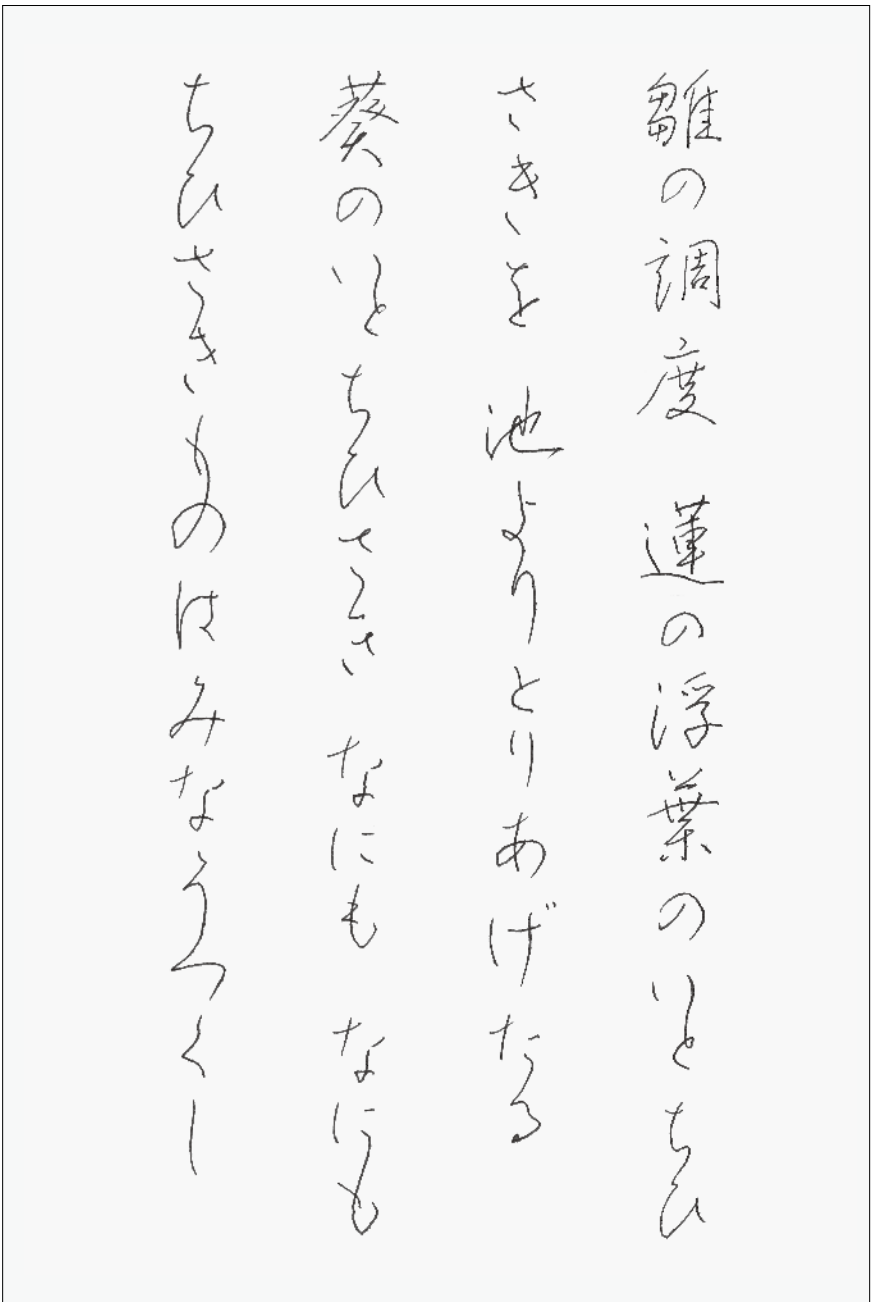


# 応用課題

旧字体	筆写体	常用体
	度度	度
葉	茶葉	葉



加藤 玲子 書

(つけペン)

〔読み〕

雛ひなの調度てうど 蓮はちすゑの浮葉うきはの

いとちひささを

池いけよりとりあげたる

葵あひろのいとちひさき

なにも なにも

ちひさきものはみなうつくし

〔大意〕

人形あそびの道具。蓮の浮き葉

でたいへん小さいのを、池から取

り上げたの。葵のたいへん小さい

の。何でもかんでも、小さいもの

はみなかわいらしい。

〔作者〕 清少納言

(九六六—一〇二五)

〔出典〕『枕草子』一五一段

〔解説〕

ひながなの曲線や結びは、ペン

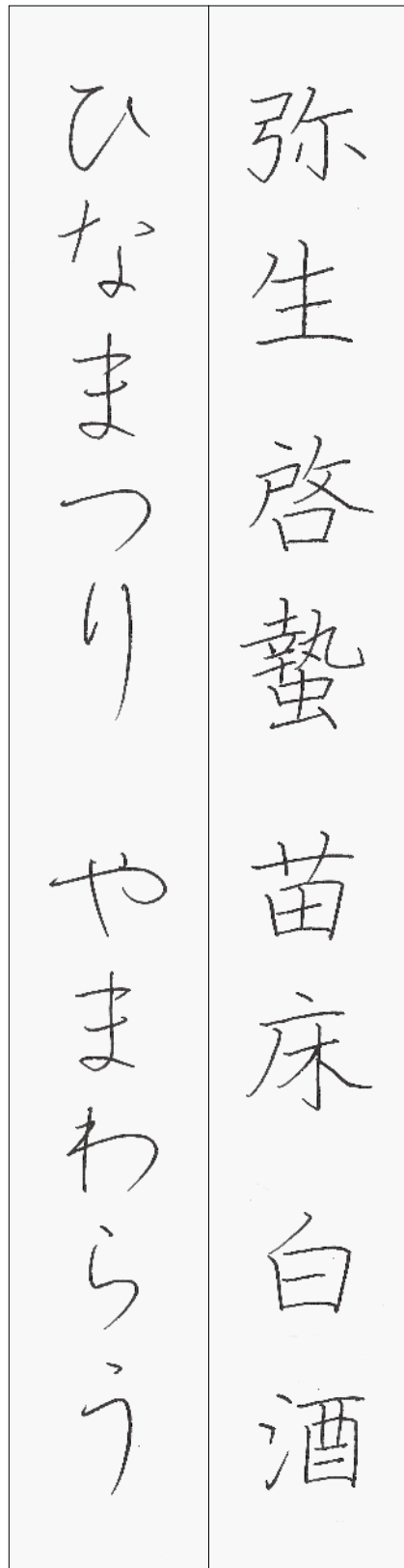
の動きをのみこみ、なめらかに

し、力をいれすぎないようにしま

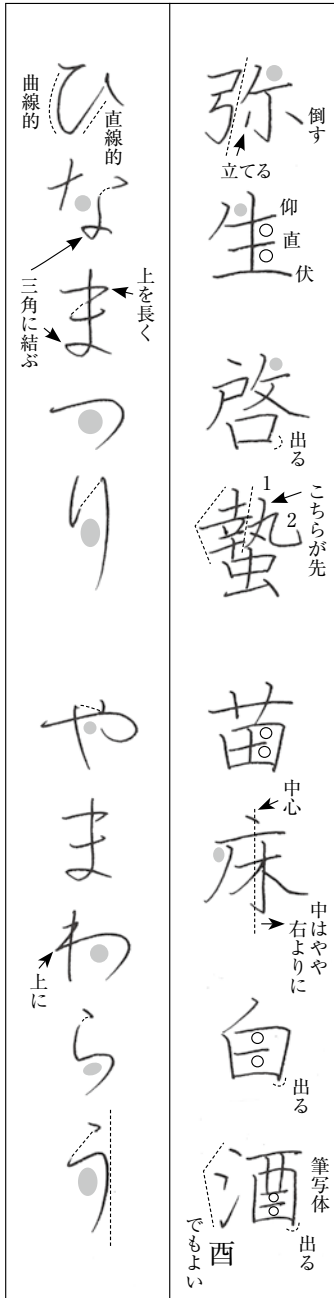
しょう。

# 基礎課題

福原 溪春書（つけペン）



## 〈解説〉



### 〈読み〉

弥生 啓蟄 苗床 白酒  
ひなまつりやまわらう

### 〈出典〉

『最新 俳句歳時記』

### 〈解説〉

「弥生」：陰暦三月の異称。「啓蟄」：二十四節気の一つ。冬眠中の虫が這い出す時期で三月五日頃。「山笑う」：春の山が若芽をまとい、明るい色を帯びる様子。

※漢字は分間や線の方向、長短に留意してまとめ、平がなは筆脈に留意し、リズムよく運筆しましょう。

用具 つけペン、万年筆またはデスクペン、  
ボールペン

つけペン

※用紙を縦にして縦書きとしてみてください。

堀津節子書

春風に

尾をひろげたる  
孔雀哉



〈読み〉

春風に尾をひろげたる孔雀哉

〈作者〉

正岡子規

(一八六七〜一九〇二)

〈大意〉

孔雀が春風に気持ちよく尾を広げている姿が実に美しい。

〈解説〉

句の情景を想い浮かべ、ペンの運びはゆつくりとして、おおらかに伸びよく書きましよう。

【用具】

つけペン、

万年筆またはデスクペン